

仏教通信「不立文字について」6月

みなさんは「あなたの本当のころってなに？」 「みんなは、本当のことを教えてもらってる？」 という質問をされたら、どのように答えますか？

本当のことは、本や新聞、ネットに書いてあることでしょうか？本当のことは、先生が教えてくれることでしょうか？本当のことは、お父さんやお母さんが言っていることですか？ 本や新聞、先生、お父さん、お母さんが言うことは、間違っていないかもしれませんが、それだけで本当のことをすべて知ったことにはなりません。

では、どうしたら本当のことを知ることができるのでしょうか？それは、自分で考えてみて、その考えたことを行動にうつして、実際に体験してみること。それが本当のことを知るための方法なのだと思います。「禅宗」という宗派が仏教にはあるのですが、その「禅宗」には、「不立文字（ふりゅうもんじ）」という禅用語があります。「不立文字」というのは、「知識（文字や言葉）だけでは、ほんとうのことは分からない」という意味の用語になります。

「禅」の教えでは、文字や言葉はもちろん、学校（小学校・中学校・高校・大学）で先生が教えてくれることも、それだけでは十分でないと考えます。その禅宗では、坐禅（ざぜん）をおこない、心を静かにして、「ああしたい」「こうしたい」「こうあるべきだ」という自分中心の考えを止めることで、自分の中にある本当の心が見えてくるというのです。本当の自分が分かれば、自分の周りにある世界の本当の姿も見えてくるというのです。「不立文字」という言葉は、「この世界にあふれている文字や言葉（噂話やネットの流言）を、安易に信じすぎないようにしなさい。」という忠告でもあるのです。

私たち人間にとって知識（文字や言葉）はとっても大切なものですが、それだけではなく、自分でも考えてみたり、実際に体験してみないと気付けないものがあるのです。目や耳をこらし、肌で感じて、自分の中に取り込むことで、本当のことが少しずつ分かってきます。児童のみなさんには、国府台女子学院で、たくさんの経験をとおして、本当のことに気付ける智慧を学んで欲しいと念じています。

小学部礼拝委員会

